

## 人の役に立つこと

長久手市立長久手中学校

三年 藤野 琉希奈

ボランティア活動ときいて何を思い浮かべますか。ボランティア活動とは、自分から進んで社会活動に無償で参加することです。私は、ボランティア活動について誰かの役に立つための活動ということは知っていました。ですが、ただなんとなく誰かのために動いているというだけで、自分自身を変えるためには何も影響がないと思っていました。お母さんから言われた「ボランティア活動をしていると将来役に立つよ」という言葉の意味もよく分かりませんでした。ですが、活動を進めていくうちにボランティア活動に対する考えが変わりました。

小学五年生のとき、私は子ども食堂でボランティアを始めました。初めは、何をして良いか分からず言われたことをただ実行するだけでした。さらに人見知りということもあり、ボランティアスタッフやお客さんとの会話は

ごく僅かでした。活動を重ねていくうちに、ボランティアスタッフの中で、来ている人にも待ち時間も楽しんでほしいという思いが生まれました。そこで、話し合いをし、将棋や読み聞かせコーナーなどを作りました。ブースの数が増え、連携しながら進めていかないといけない状況で会話は必要不可欠でした。回数を重ねていくことで、会話も増え、自分から意見を発信することも増えました。

私は、読み聞かせコーナーのリーダーを任されました。ブースの担当になっても、その場所だけにいるわけではありません。他のところから呼ばれたり、自分からスタッフが少ないところに動いたりと周りを見ながら行動することも増えました。準備のときには、決まったスペースの中ですべてのブースを配置する必要があります。ブースをどこに配置するのかを考えるときに自分の意見を言ってみたら、賛成されました。そこで私は、自分の考えを認めてもらうということとは、とても嬉しいことだと実感しました。

最近では、さくら祭りがありました。いつ

もの活動より出し物の数が多く、人員配置が難しくなります。誰が何を担当するのかがなかなか決まりませんでした。そこで私は、自分で人員配置を考えてまとめたものを提示しました。そうしたら、この人はこっちにほしいなどといった声が上がり、話し合いが進み始めました。そこからいろんな意見が飛び交い、企画内容を深めることができました。当日は雨が降り、準備していたものができなくなりましたが、万全の準備で迎えることができました。

ボランティア活動は、誰かの役に立つだけではないと私は思います。お客さんに少しでも満足してもらうためには何ができるのか。ボランティアスタッフにとって居心地のよい環境にするためには、どうすればいいのか。そのようなことを考えることによって自分自身を成長させるための一歩になり、学生のうちから考える力をつけることで将来、何かしらの形で役に立つと分かりました。

今、私が活動している子ども食堂では、「もらってくださいいコーナー」という着られな

なくなった服や雑貨などをリユースするという活動があります。私はさくら祭りが終わった今、その活動に力を入れていきたいと思っていきます。先日、さくら祭りの日に、服をたくさんもらってくださった人が「ありがとう」と言ってくれました。その時私は、とても嬉しく思い、これからもたくさんの人にそのような形で喜んでもらいたい。そう思いました。

私は将来、誰かの役に立つ仕事に就きたいと思っています。そのような仕事では、ボランティアの経験が必ず生きてくると思います。なので、これからも自分の時間が使える限りボランティア活動に力を入れていきたいと思っています。